

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 岡田 一平

論 文 題 目

Prevalence of obstructive sleep apnea as assessed by polysomnography
in psychiatric patients with sleep-related problems

(睡眠関連症状を有する精神疾患患者における

閉塞性睡眠時無呼吸の有病率)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

山田 清文

名古屋大学教授

委員

勝野 雅央

名古屋大学教授

委員

曾根 三千彦

名古屋大学准教授

指導教員

木村 宏之

論文審査の結果の要旨

睡眠関連症状を有する精神疾患患者 264 名の終夜睡眠ポリグラフ(PSG)検査の結果から、55%に無呼吸低呼吸指数(AHI) ≥ 5 の閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)を認めた。このうち、62%が AHI ≥ 15 の中等症・重症であった。主訴がいびきの患者の 74%に OSA を認めた一方、主訴がいびき以外の患者からも 42%に OSA を認めた。自記式の質問紙(ピッツバーグ睡眠質問票、エプワース眠気尺度)の平均スコアや、ベンゾジアゼピン受容体作動薬や抗精神病薬などの向精神薬使用状況から、OSA を予測することは困難であった。このため精神疾患患者に潜在する OSA に対し、積極的に PSG を考慮する必要があると考えられた。本研究に対し、以下の点を議論した。

1. OSA 非併発うつ病患者に比べて、OSA 併発うつ病患者では、抑うつの重症度が高く、エピソード期間も長いことが報告されている。また、ヴェンラファキシンに対する 12 週後の治療反応性が低下するという報告がある。このため、治療抵抗性のうつ病では OSA のスクリーニングを考慮すべきという報告がある。アトモキセチンとオキシブチニンの併用が AHI 低下に有効という海外の報告がある。小規模研究では、非ベンゾジアゼピン系薬剤が持続用圧呼吸療法(CPAP)導入時の CPAP 使用を増加させる可能性が報告されている。三環系抗うつ薬や SSRI では OSA 患者の睡眠効率を低下させるという報告がある。

2. OSA のスクリーニングとして、STOP-BANG の感度が最も高いことがメタ解析で報告されている。しかし、ベッドパートナーのいない場合、いびきや呼吸停止の目撃が明らかにならないこと、倦怠感は OSA のみならず精神疾患自身で生じること、血圧や首周囲計をルーチンで測定しないことなどの精神科実臨床上の課題がある。電話や問診で OSA を除外した一般人口の 43%に PSG で OSA を認めたという報告や、不眠症と診断されていた人の 23%に PSG で OSA を認めたという報告もあり、PSG により隠されたかなりの OSA を明らかにすることができる可能性が示唆されている。

3. OSA ではうつ病の有病率が高く、逆にうつ病では OSA の有病率が高い。しかし、体重増加は OSA の相対危険度を増加させること、肥満において抑うつの頻度が上昇すること、重度の精神疾患では栄養や活動性の悪化があり、体重増加とも関連することなど様々な交絡因子が介在する。このため、うつ病の結果の OSA か、OSA の結果のうつ病なのかについての判断は難しい。うつ病で見られる入眠困難は OSA の典型的な症状でないこと、CPAP は OSA 患者の抑うつ症状を改善させること、うつ病患者において CPAP 使用が抑うつを改善させることが知られている。一方で、抑うつは CPAP のノンアドヒアランスのリスク因子であることも報告されている。

本研究では睡眠関連症状を有する精神疾患患者に潜在する OSA に関する知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	岡田 一平
試験担当者	主査	山田 清文	副査 ₁	勝野 雅央
	副査 ₂	曾根 三千彦	指導教員	木村 宏之
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OSAの有無がうつ病の経過・治療と関係があるか。 例えばベンゾジアゼピンとOSAの予後など薬剤との関係はどうか 2. OSAをスクリーニングする質問紙はないか。 質問紙はどの程度有効か。 3. うつ病の初期症状としてOSAなのか、OSAでうつ病になるのか。 うつ病はOSAのリスク因子なのか。 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				